

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375700891		
法人名	医療法人大岩医院		
事業所名	グループホームヒラソルとよはま		
所在地	愛知県知多郡南知多町豊浜字上大田面12-1		
自己評価作成日	平成21年9月20日	評価結果市町村受理日	平成21年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町1丁目24番地 S101号室
訪問調査日	平成21年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医院と併設！理念にも掲げたように、地域の中で住民との交流が図れ、アットホームな雰囲気の中で共同生活ができるよう終身まで支えて行く！ゆったりと楽しく、自由にありのままに、いつも同じ馴染みの環境。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営し、同敷地内に医院、デイサービスが併設されており夜間緊急時にも対応可能。豊浜鯛祭りで巨大な鯛の張りぼてが登場する祭りに、毎年参加し思い出話に親しんでいる。又、町内の事業に参加し、地域に密着した医療と介護サービスに取り組んでいる。ホームには中庭があり、部屋も明るく日当たり良くゆったりと過ごせるように工夫している。一人ひとりを大切にケアの実践がされ、住み慣れた地域で安心して生活できるように努力している。野菜、果物等、地域住民の差し入れにより旬の食材を使った料理は、利用者の楽しみの一つでもあり、利用者・職員が家族のように生活しているように感じられたホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている		地域密着サービスをふまえた理念は、管理者、職員全員で考えたものであり、玄関、リビングの壁に掲示され誰でもが確認できる。職員は毎日のミーティング等でも意識づけがなされ、日々のケアに役立っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り、小学校の運動会の見学・参加(玉入れ等)、又、町の行事等に参加している。	町内会に加入しており、回覧板、散歩での挨拶、地域の方々からの魚、野菜、果物の差し入れ等、日常的に交流している。地域の鯛祭り、文化展、お茶会また小学校の運動会にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回のヒラソル夏祭りでは、一般の人にも参加してもらい、認知症の人を、身近に感じて、理解してもらう様、努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者に情報を発信し、会議で出た意見等を、利用者のサービス・スタッフの向上に活かしている。	利用者の家族、役場職員、駐在所警察官等多数の参加があり、ホームの状況説明、学習会、意見交換会等が行われた。会議での質問、意見、要望等はスタッフ会議等で検討しサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回は、高齢者福祉課の担当者との、意見交換をしている。	運営推進会議に役場職員は毎回必ず出席されそこで意見交換等を行なっている。また、月一回以上は役場に出向き情報等伝え協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どこまでが、身体拘束か職員間で、若干の開きがあるが、安全の為、門は施錠されているが、玄関がオープンの為、庭への出入りは自由である。	職員は講習会等で身体拘束の弊害を理解しており、拘束しないケアに取り組んでいる。門は防犯上施錠しているが、玄関、庭は施錠せず出入りは自由である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われない様に、職員一人ひとりが、ゆとりのあるケアをできる様、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に、契約書を元に、十分な説明をし、疑問点には正確に答えられるように、努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者同士のトラブル等、職員が仲裁に入ったり、食事の席等を変えたりしている。	家族会で要望等を聞だけでなく、家族等の訪問時にも必ず声がけし、何でも話せる雰囲気を作っている。利用者の要望で青魚の嫌いな方には、代替りの食品等を提供し運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、全員のミーティングを行う。	日頃より意見を聞く機会はミーティング等で持っているが、さらに月一回の全員ミーティングで意見や提案を反映するよう努力している。職員の提案でシフト時間の変更、遠方への飛行場見学等が取り入れられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフトを作成する時は、職員の希望を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に、全員が出席できるように、順番にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	G・H連絡協議会、知多ブロックで意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間がかかっても、よく話を聞いて、本人の要望に少しでも近づけ、安心してもらうように、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方も時間を掛けて、様王に耳を傾けて、納得できるまで、話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	地域の行事と一緒に参加したり、ラジオ体操、心経も一緒に行く。畑作りを芝に行い、支援しながら、良い関係を作っていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	疎遠になりつつあるある場合は、本人の心身の状態を考えて、家族に連絡して、来訪してもらう。おたよりなどを作り、ホームでの行事、参加している様子を知ってもらう。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人が来訪されると、レクリエーションなどに参加してもらう。散歩などで、地域の人達とふれあいをしている。	ホームには医院とデイサービスが併設されており、その利用の友人がよく訪ねて来ており利用者も喜んでいる。天気の良い日には散歩等馴染みの場所への支援も行なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お手伝いなどをしながら会話したり、お互い助け合っている。見守りながら、支援している。(洗濯たたみ・食器洗い等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えの際、情報交換をするよ支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の希望・意向は良く話し合ったり、日々の関わりの中で把握していく。意思疎通が取れない人には、家族から情報を得る。	職員は、利用者との生活の中で、言動や表情から希望や意向を汲み取るよう努力している。困難な場合は、家族等からも情報を聴き利用者の意向に添えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、本人からは、日々の会話をして聞き取る。以前の様な暮らしに少しでも近づけるよう、馴染みの方に来訪してもらう。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を注意深く見ていき、個々の常態を把握し、理解して支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしく、より良く暮らす為に、家族・本人・スタッフ等で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	3か月に1回、ケアカンファレンスを実施し、本人や家族の希望、意向を反映した介護計画を作成している。利用者毎に担当制を敷いているが、毎日ノートに記入し、全員で把握し意見交換やモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ミーティングで、実践・結果などを話し合い、一番良い方法を実践できるよう、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接のデイサービスでの行事に参加し、交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議など取り入れて、交友にも努めている。ボランティアの交流も取り入れ、楽しく過ごしてもらう。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	委員と併設しているので、希望があれば、受診してもらう。他科への受診も本人・家族の希望通りに、支援している。	医院と併設しており、夜間緊急時にも対応ができる。眼科は月1回、皮膚科は月2回往診があり、又、他科受診を希望される方には随時医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の検温などで、体調管理をする。早期異常の発見につながる。医院と看護師との情報交換に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、病院・医院の情報交換などの連携は取れている。退院後の処置、治療もすぐに行える。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化から終末期については、十分家族と話し合ったり、事前所を確認しながら、本人・家族へのサポートも取り組んでしている。	重度化から終末期については、入居時本人及び家族と十分話し合いを行い、併設している医院、職員と方針を共有し、すでに9人の看取りを行い、今後も今までの経験を活かしチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には適切な行動ができるよう、ミーティング、訓練を行っている。併設した医院に連絡する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署を交えての訓練を、行っている。それ以外でもスタッフは良い指導方法を話し合っている。物品等は玄関に、すぐに持ち出せるよう準備してある。	年1回、消防署を交え訓練を行い、今年は夜間を想定し利用者を交え避難訓練を行っている。又、職員は適切な訓練方法を検討し、地域住民にも協力を呼びかけ、非常食、物品等は玄関に保管しすぐ持ち出せるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	守秘義務は、徹底して行っている。声かけなども、個々に合わせて対応している。	声かけや対応等、個々に合わせて、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう支援している。利用者・職員も近隣者が多く秘守義務は徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動する時に、声掛けを必ずして、意思表示できるようにはしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、トイレ誘導以外は、フリーなので、個々に自由に過ごされる。(臥床する人、TVを見てる人、お手伝いをする人)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴には、自分の好みの服を持って来てもらったり、美容院はボランティアの方が2ヶ月に1度来訪されるので、希望を言って髪を切る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の中に、各自好みの物を組み入れている。食事の準備は中々できないが、切り置きしたりする物や、片付けは一緒に行う。	近隣の人や職員が地元で採れた野菜や果物の差し入れがあり、旬の季節の物を使い、個々の好みの料理を献立に取り入れ、食前には嚙下体操をしている。野菜切りや片付けは、職員と一緒にいき、食事が楽しみになるよう支援している。	職員は利用者が食事している間は介助に徹して一緒に食事を摂らない方針であるが、みんなと一緒に食事を楽しめる方法も検討することも期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調管理をしながら、食事量・水分量を確認して、その人に合った食事生活を、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアは、かかさず行う。自分であるべく歯(義歯)は磨いてもらう。時々スタッフを確認して、清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はオムツでも、日中は失敗してもオムツはせず、トイレ誘導を行う。寝たきり以外の人は、自立の為、支援している。	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導、昼間はリハビリパンツを使いおむつの使用はせず、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が続いた場合は、体を動かしてもらったり、水分補給をしてもらう。それでもだめな場合は、Dr報告にて薬の力を借り、なんとか毎日、又は、2日おきに排泄できる様にしていく。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助がないと入浴できない方々なので、どうしても曜日や時間帯を決めなければなりません。入浴日に入りたいと言え、対応に合わせて支援していきます。	隔日おきの入浴になっているが、希望時には柔軟に対応している。個浴で広くゆったり入浴を楽しむことができ、夏は涼しく、冬は予熱暖房器が設置されており、個々に添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢者が増えてきたので、体を動かした後、長く座っていると疲れてくるので、急速してもらったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が、服薬の支援をしているので、体調変化等は、スタッフ全員が共有する。誤飲に注意、飲用前には必ず、名前確認を怠らない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者の得意な事を把握して、その人に張り合いを持ってもらえるよう、役割を楽しんで行えるよう支援する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事を作成して、会社見学など、地域の行事に参加する。本人の希望により、散歩も行ったりしている。	一人ひとりのその日の体調にあわせ、希望に添って散歩に出かけたり、ホーム内の野菜や花等を作り収穫を楽しんでいる。又、年間行事を作成し、地域の町内会の行事に参加したり、家族と協力し出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が所持できる人には、所持してもらうが、他の人方は希望に応じて、渡している。 (自分で管理できない為)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙などは、自由にしてもらう。電話をかけられない人には、入所者の前で、かけてあげる。手紙の代筆もします。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下には季節の花、展示物を飾ったりと、季節感を味わってもらい、トイレの扉が開閉できないので手作りカーテンに代えて、穏やかに過ごしてもらう。	玄関、廊下には季節の花を飾り、居間や廊下にはスナップ写真、折り紙で作った作品を展示し生活感や季節感を取り入れている。又、トイレの扉が開閉できない人の為、手作りカーテンに変え居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんで過ごせるよう、和室5～6人が座って過ごせる居場所の工夫。独りになりたい時は、居室にえ過ごす。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具・寝具を持参してもらい、居心地良く過ごしてもらう。他に欲しい物は、家族と相談して持って来てもらう。	自宅で使い慣れた家具・寝具や雑貨を活かし、中庭に面した居室は日当たりがよく心地よく過ごせる。居室の入り口横に車椅子の収納スペースを作り安全面にも工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しでも歩行できる人には、スタッフの手引き歩行で自立の援助する。ふらつきのある人でも、すぐに車椅子にするのではなく、シルバーカー使用にて、支援していく。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームヒラソルとよはま

目標達成計画

作成日: 平成 21年 11月 10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	・家族の面会も少なくなって来ている。 ・なかなか家族の方は時間取れない様子。ホームさんでお願いしますといわれる。	・社会見学などの行事にもっと家族の方に参加して入所者より多くふれあってもらう。	・早目に行事の連絡を取る。 ・来訪時または手紙、TELなどでも参加を促して行く。	12ヶ月
2	49	・冬の寒い時間は、なかなか外に出ようとしめない。出る機会がない。 ・全員行く事になるとスタッフがいない。	・散歩の際、月に数回喫茶店、買物に行き地域のみなさんと、もっとふれあってもらいたい。	・暖かい日には、時間を作り、数人ずつ分かれて喫茶店などに行く。 ・ボランティアなどにも参加してもらう。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月